



徳川美術館 名品コレクション展示

令和5年9月26日(火)~12月15日(金)

展示期間 A:9/26(火)~10/15(日) B:10/17(火)~11/17(金) C:11/18(土)~12/15(金) D:11/28(火)~12/15(金)

【第5展示室】

凡例:◎は国宝・◎は重要文化財・○は重要美術品を示します。

大名の雅び — 奥道具 —

大名自身やその夫人・子ども達の私的な生活の場「奥」で、身の回りを飾ったり、使用した道具、また教養を高めたり、趣味や遊びに用いた道具を奥道具という。大名の華やかな生活をしのばせる豪華な蒔絵の調度品は、婚礼の際の入奥道具に多い。その種類は、香道具・化粧道具・文房具・飲食器、旅道中具・遊戯具・楽器など多岐にわたる。

王朝文化の伝統をひく貝合せや間香は、単なる遊びではなく、武家の婦人に欠かせない教養だった。楽器の演奏も、たしなみの一つである。古くから宝物視されていた古筆や古画はもとより、江戸時代の狩野派・土佐派の作品や、浮世絵なども愛好されていた。

No.	指定名	称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間	
1	○	巖島・松島図屏風	六曲一双	土佐光起筆	江戸	17	A
2		六玉川図屏風	六曲一双	神谷晴真筆	江戸	19	B
3	○	十二ヶ月図屏風	六曲一双	田中訥言筆 岡谷家寄贈	江戸	19	C
4		和漢八景図絵巻	二巻の内	狩野洞白(愛信)筆 淑姫(11代将軍徳川家斉長女)所用 個人蔵	江戸	19	A
5	◎	破来頓等絵巻			鎌倉-南北朝	14	B
6		俊成卿九十賀図巻		詞書 冷泉為村筆・絵 高槻重起筆	江戸	18	D
7		桐火桶		伝冷泉為秀筆 個人蔵	南北朝	14	A
8		詠歌一鉢		今川了俊筆	室町	応永9年<1402>	A
9		百人一首		里村紹巴筆 個人蔵	室町	天正4年<1576>	A
10		綺語抄		伝池田光政筆 個人蔵	江戸	17	A
11		和歌題林抄		伝一条兼良筆 個人蔵	室町	15	A
12		葵紋散蒔絵手拭掛			江戸	19	BC
13		葵紋散蒔絵眉作箱			江戸-明治	19	BC
14		葵紋散蒔絵櫛台			江戸-明治	19	BC
15		葵紋散蒔絵化粧台			江戸-明治	19	BC
16	◎	初音蒔絵昆布箱		霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	寛永16年<1639>	AB
17	◎	初音蒔絵短冊箱		霊仙院千代姫(尾張家2代光友正室)所用	江戸	寛永16年<1639>	C

【第5展示室の見どころ - 国宝 初音の調度 -】

初音の調度は、寛永16年(1639)9月21日、3代将軍家光の長女・千代姫が、尾張家2代光友に婚嫁する際に持参した調度で、日本一豪華な嫁入り道具といわれる徳川美術館の代表的所蔵品の一つである。鏡台や貝桶、三棚などの蒔絵調度を中心に、染織・金工品など総計70件が国宝に指定されている。「初音の調度」の名は、『源氏物語』「初音」の帖の「年月を松にひかれてふる人に今日鶯の初音きかせよ」の歌意を全体の意匠とし、その歌の文字を葦手書きに散らしていることに由来している。

特別公開 国宝 源氏物語絵巻

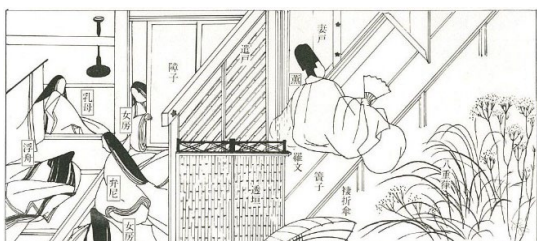
※展示期間 11月18日(土)~11月26日(日)

- ◎ 源氏物語絵巻 竹河(一)
- ◎ 源氏物語絵巻 東屋(二)

平安	12	※
平安	12	※

わが国の代表的な美術品とも言うる、国宝「源氏物語絵巻」は、王朝時代の人々の雅びやかな暮らしぶりを余すところなく伝えてくれる現存最古の物語絵巻である。毎年11月下旬には、この絵巻から数場面を選んで特別公開を行なっている。もとは巻物装として伝わり、昭和7年(1932)に保存のために額面装に改装され、近年、額面装による本紙への負荷を軽減するために再び巻物装に戻し、一場面ごとに絵と詞書を一巻の巻物に仕立て、絵巻本来の姿で鑑賞いただくことが可能となった。

竹河(一) 光源氏はすでに世を去り、薫や匂宮ら次世代の登場人物達により物語が展開する。玉鬘の邸を訪れた薫に、宰相の君は「少し色めけ梅の初花(もう少し艶やかにおなりなさい)」と和歌に託して戯れかける。薫も若者らしくこれに返す。



東屋(二) 秋の冷たい雨がそぼ降り、八重葎の庭も闇に包まれた頃、三条あたりの隠れ家にいる浮舟を訪ねた薫。縁に座し、中空をながめつつ薫は待つ。